

P25a 射手座 B2 分子雲の方向に見つかった一酸化珪素メーザー源

出口修至、大石雅寿 (国立天)、志岐成友、松本茂、中田好一 (東大理)、B. W. Jiang (総研大)、P. R. Wood (Aust. N. U.)

これまでに見つかっている一酸化珪素メーザー源は、そのほとんどが晩期型星に付随するものであった。星形成領域に見つかっているものは、オリオン、W51、および射手座 B2 分子雲の 3 例に限られていた。これらの、分子雲内部の一酸化珪素メーザー源は、若い大質量星に付随すると考えられ、大質量星形成に関する貴重な情報を提供する。我々は、野辺山 4.5 メートル望遠鏡を用い、射手座 B2 分子雲の別の熱的に励起された輝線のマッピング中に、43 GHz の一酸化珪素メーザー輝線の搜索を同時に行い、射手座 B2 分子雲方向、0.154 平方度内に、6 個の新しい一酸化珪素メーザー源を見つけた。この内、その位置が、IRAS 点源に一致するものが 1 つ、既に見つかっている 1612 MHz OH/IR 源に一致するものが 1 つで、残りの 4 つはこれまで、まったく知られていない天体である。我々はまた、木曾観測所の KONIC、および ANU 2.3-m の赤外カメラによるイメージング観測を行い、J, H, K-band (2.2 ミクロン) によるこれらの天体の同定を試みた。これらのメーザー源の内、4 つは K-Band で同定ができ、これらはおそらく銀河中心近傍に位置する晩期型星であろうと思われるが、同定できなかった 2 つの天体は、星形成領域に付随するものである可能性がある。